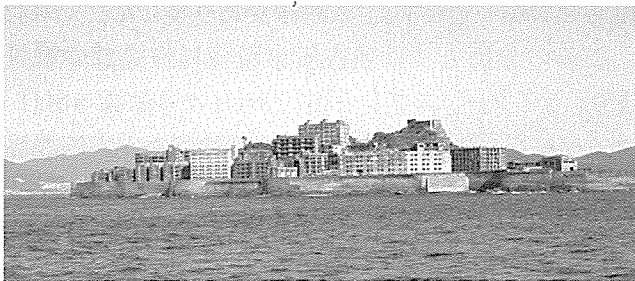


名古屋支部

視察研修会

名古屋支部（清水善実支部長）は、令和元年10月16日（水）から17日（木）に支部会員20名が参加し、長崎県長崎市にある軍艦島（端島）と長崎市西海町にあります株式会社中央環境を視察しました。

初日は軍艦島を視察しました。軍艦島は明治時代から昭和時代にかけて海底炭鉱として栄え、大正期には日本初の鉄筋コンクリート造の高層集合住宅が建設されました。人口が最盛期を迎えた1960年代には人口密度が世界一で東京特別区の9倍以上に達していました。この頃には、高島町端島支所、小中学校、店舗、病院、娯楽施設などがあり、島内においてはほぼ完結した都市機能を有していました。



軍艦島遠景

1960年以降は主要エネルギーが石炭から石油への移行により衰退し、1974年1月の閉山に伴って島民が離れ無人島となりました。その後、2015年7月5日に国際記念物遺跡会議（イコモス）により、軍艦島を構成遺跡に含む「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録され、長崎市の観光資源として復活しました。



クルーズ船の前で記念写真

視察では初めに、軍艦島ミュージアムで住民の暮らし、過酷な労働環境と労働争議などの軍艦島の歴史

を学びました。また、軍艦島への上陸を楽しみにしていましたが、生憎と9月に九州を襲った台風17号により唯一の上陸栈橋であるドルフィン栈橋が損傷し、軍艦島への上陸はできませんでしたが、観光船により軍艦島の周囲を巡り、軍艦島の歴史を実感することができた素晴らしいクルージングでした。

二日目は、株式会社中央環境を視察させていただきました。株式会社中央環境は建設廃棄物の減量化や安定化、安全化に取り組みゼロエミッションを視野に入れたりサイクル事業を推進しています。廃ガラスびんは破碎・選別・角落加工を施し10mm以下の砂状の製品（ガラス再生砂）として路盤材や埋め戻し材として、廃プラスチックや廃木材・繊維くず・古紙は固形燃料（RPF）とし石炭や重油等の代替燃料として、廃石膏ボードは紙と石膏粉に分離し、紙はRPF原料に、石膏粉はセメント原料の代替に、解体材・伐採材・廃パレット等は木質チップに加工し、燃料やボード原料としてリサイクルしています。また、安定型処分場は準好気性埋立構造を採用し、廃棄物を早期安定化させ環境負荷を低減した処分場となっています。また、浸透水を24時間水質モニタリングを行うなど環境に配慮した監視を行っています。



志治部長の説明を受ける見学者

視察に際して数々のご配慮を頂きました営業部長の志治忍様並びに幹部の皆様に参加者一同深く感謝を申し上げます。

今回の視察研修の参加者全員が、貴重な知見を得たことを感謝し、帰路につきました。